J-26

共生の港
移民受け入れによる外国人労働者のための居住施設の提案
Port of symbiosis
Proposal of residence forms for foreign residents by immigration

佐藤信治[1]，○佐々木秀人[2]
Shinji Sato[1], *Shuto Sasaki[2]

"Emigrant's acceptance" is considered as one of the policies with which shortage of labor with a population decrease is made up in our country in recent years. The Japanese population of 127,000,000 people will decrease in 2/3 at present in 50 years from now on in Japan where declining birthrate aged society is progressing, and it's predicted that a Japanese number will be only 43,000,000 people in 2110. The problem which is most by this is that the work force which shrinks rapidly can't support any more the senior citizen population which keeps increasing. Emigrant's acceptance is expected as one of such problem solving plans.

1.　はじめに

近年我が国では，人口減少に伴う労働力不足を補う政策の一つとして，「移民の受け入れ」が検討されている．少子高齢化社会が進行している日本において，今後 50 年間で現在 1 億 2700 万人の日本の人口が 3 分の 2 に減少し，2110 年には日本人の数がわずか 4300 万人になると予測されている．これによる一番の問題は，急速に収縮する労働人口が，増え続ける高齢者人口を支えられなくなることである．移民の受け入れがそうした問題解決策の一つとして，期待されている．

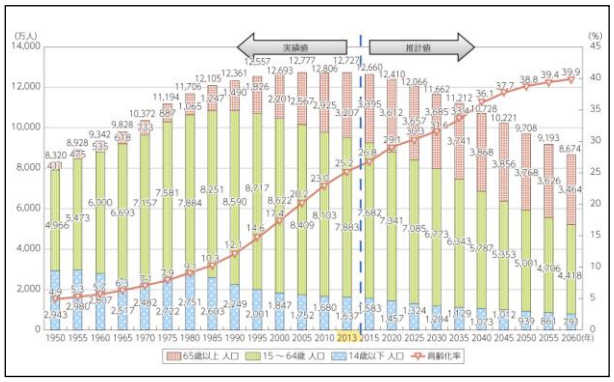

Figure 1.　Japanese change in the population

2.　計画背景

2.1.　多文化共生社会の進行

ヨーロッパ各国では，移民の誘致によって経済の活性化を図ってきた国が多く，多文化共生社会という考え方が広がっている．このような理由から，今後日本の労働力人口を補い，経済の活性化を支えていくためには，移民の経済力を活用していくことが必須になっていくであろう．これからの社会において，移民であっても社会に参画し，自国民市民と対等に暮らすことのできる多文化共生社会を実現することが求められているのではないだろうか．

2.2.　移民受け入れによる問題点

犯罪率の上昇などの問題は，国民への不信感を仰ぎ，移民を隔離することとなってしまっている．労働力として「支配」するのではなく，日本人としての文化的思考を互いに近い距離感で生活をしながら養っていくことが，移民と自国民市民との共生につながるであろう．本計画では，地元民と移民双方が互いの文化を受け入れ，多文化共生社会として生活していけるような住居形態の提案をしていく．

3.　敷地選定：茨城県大洗町磯浜町

敷地はインドネシア人労働者を多く受け入れてきた茨城県大洗町磯浜町．本計画地は，漁業を中心として

Figure 2. Plan Site

１：日大理工・専任講師・海建　Department of Oceanic Architecture & Engineering , CST. , Nihon-U.
２：日大理工・学部・海建　Department of Oceanic Architecture & Engineering , CST. , Nihon-U.

栄えてきた街であり，水産加工業が盛んにおこなわれている．この街では，積極的に外国人労働者を受け入れている土地でもある．周辺には観光地としての商業エリアが豊富に点在し、一般人と移民の接点の多い場所といえる．

3.1.　漁業の街「大洗町」

茨城県沖の海面では親潮と黒潮が交錯し，高い漁業生産力が期待できることから，大洗町では，漁業が主要産業の一つとして栄えてきた．その中でも，漁業が盛んな地域の周辺には水産加工業の集積が形成される傾向にあり，大洗町はその水産加工業として県を代表とする産地として発展してきた．しかし，第一次産業の中でも特に漁業では，少子高齢化や後継ぎの不足などの問題により縮小への道を辿っている．本計画地である大洗町も例外ではなく，事業所数の減少が急速に進んでいる．

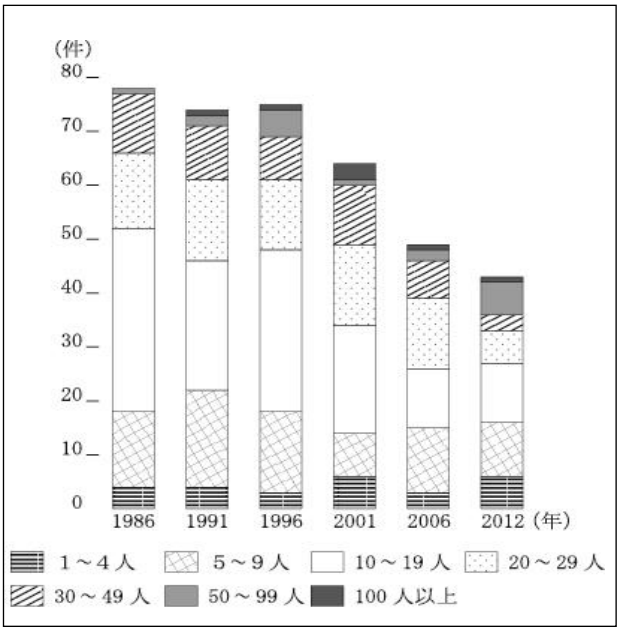

Figure 3. The proportion of the number of establishments

3.2.　移民受け入れの街

本計画地である大洗町では，インドネシア人の外国人労働者の受け入れが活発に行われている．様々な機械の導入による効率化によって生産量が増加する一方，魚介類の加工に伴う細かな調理は手作業で行わざるを得ない．そのための労働力として，現在でも外国人労働者を受け入れている．しかし，現在大洗町では，外国人労働者のための受け入れ施設の不足やそれによる外国人労働者の孤立などの問題が挙げられている．移民のための住居整備が整わない街だと，移民独自の文化が形成されやすく，それが移民者の言語能力の低下，移民者の孤立，さらには犯罪率の上昇などの問題にまで発展してしまう．

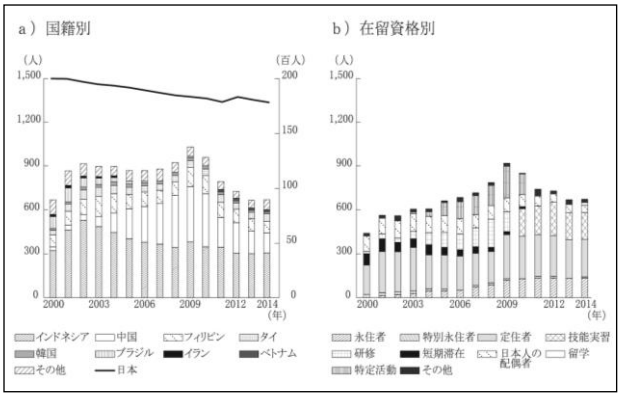

Figure 4 Change in the foreigner population

4.　基本計画

本計画では，孤立化している移民が地元住民や観光客とより近い距離で関係しながら生きる住まいを提案する．水産加工場エリアでは，移民と地元漁師との関係．住宅エリアでは，移民と地元従業員，商業エリアでは移民と一般の客のように，それぞれのエリアで様々な関係性が生まれる．それぞれの機能をまとめて職住一体型住居として建築をつくり，外国人労働者と地元住民との交流を促すことで，移民の孤立化を解消する．それぞれの機能が近い距離感で作用しあうことが，新たな交流を生むきっかけとなり，それにより移民と地元住民が共生していく住居形態を提案する．

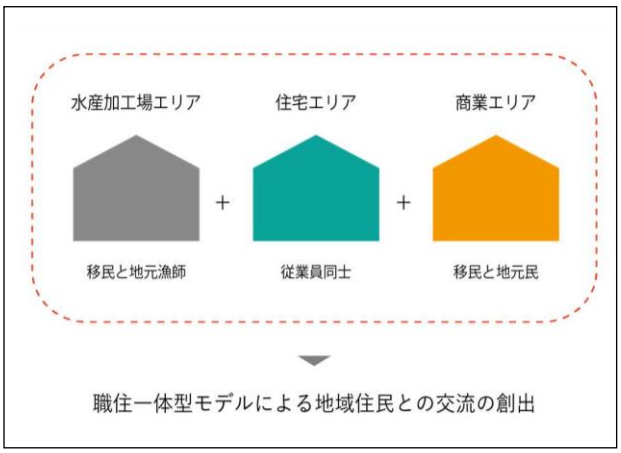

Figure 5 diagram

5.　参考文献

[1] 金 延景:「茨城県大洗町における日系インドネシア人の定住化要因」2016
[2] 目黒 潮:「茨城県大洗町における日系インドネシア人 の集住化と就労構造」,
[3] 奥島美夏 :「日本のインドネシア人社会」,